

資料調査 出雲国風土記写本の調査（二十一）

小序

古代文化センターで実施している風土記調査事業において『出雲国風土記』等の写本の調査をし、『古代文化研究』誌上で、その書誌的内容を報告してきた（『古代文化研究』第十二号所載「資料調査 出雲国風土記写本の調査（一）」小序 二〇〇四年 参照）。

今号では令和六年度における『出雲国風土記』写本の調査について報告する。

一、島根県立古代出雲歴史博物館所蔵『出雲国風土記』写本（鈴鹿家旧蔵本）

所在地 島根県出雲市杵築東九九―四 島根県立古代出雲歴史博物館

* 調査日 令和六年（二〇二四）十二月十六日

（調査者 平石充・吉永壮志・橋本剛・田中昇一・野々村安浩）

二、島根県立古代出雲歴史博物館所蔵『出雲国風土記』写本（鈴鹿家旧蔵本）

（1）資料について

資料名…出雲風土記抄 意宇郡

（2）写本の概要

島根県古代文化センター 風土記調査研究班

野々村 安 浩
吉 永 壮 志

* /は改行を、□は判読できない文字を、双行は「」で表す。

出雲国風土記鈔写本の丁数、表・裏を、「六七丁ウ」のように記す。

【装丁】 袋綴 二穴 一冊

【法量】 縦二四・五cm×横一八・二cm（見開き三三・二cm）

【丁数】 頭書 五丁

岸崎氏佐久次源時照（自序） 四丁

杵築松林寺法印破衲宏雄（序） 一丁

出雲風土記鈔 本文 二二三丁

半丁面 風土記本文 八行 一行一八字

風土記鈔文

一二行 一行二〇字前後（本文一七丁オ）

【外題】 「出雲風土記 意宇郡 能義郡 一」 【写真1】

【内題】 「出雲風土記」 【写真5―3①】

【蔵書印等】 頭書一丁オモテ 朱方印「鈴鹿家」（二・一cm×二・一cm） 【写真2】

【奥書等】

（本文二三丁オ）

【写真3①】

「四拾五代聖武天皇御宇天平五癸酉歲ヨリ正徳三年迄

九百八十一年

神龜三丙寅ヨリ享保年迄九百九十九年ニ至天平共神龜三ヨリ八年後

大鏡二十冊 藤原 業入道撰

宇多天皇ヨリ以来天皇大臣等ノ

御事記セリ

八雲御抄七冊 順徳院御作歌

詞各所歌合歌會等作法ナリ

(本文二三ウ)

「右上田氏書拝見畢惡筆他見恥布候

以上

于時享保六丑六月日

雲陽能義郡上布部也

二所大明神天日神社安来大明神宇波社四社神官

布部邑住

恩田淡路守宗房写
之」

【本写本について】

(一) 本写本は、出雲風土記鈔の写本の一部(意字郡)であり、島根県立古代出雲歴史博物館が、令和六年(二〇二四)九月に購入した際の出雲風土記『沙羅書房古書目録』(令和六年 第一〇八号)には、「京都吉田神社鈴鹿家蔵印」と記されていた。

(二) 出雲風土記鈔の写本は、大日方克己氏によれば、次の三系統に分類されている(大日方 二〇二一)⁽¹⁾。

(A) 出雲歴史博本系諸本(島根県立古代出雲歴史博物館所蔵『出雲風土記鈔(雲州風土記)』を、以下出雲歴史博本と略称)

(B) 勝部氏本・藤波本系諸本(島根県立大学所蔵『出雲国風土記鈔』(勝部氏本)を、以下勝部氏本と略称)

(C) 俗解抄系諸本

その三系統のうち、本写本は次項の(三)の諸点から、(B)の勝部氏本系の写本と推定される。ただし、本写本は「意字郡」のみ(おそらく当初四冊であった勝部氏本のうち第一冊に相当)であるため、(A)系統諸本の第四冊に記されていたと推定される、「宏雄跋」の有無は不明である。なお、勝部氏本の概要は、橋本剛・野々村安浩(二〇二三)⁽²⁾で報告している。

(三) 本写本は、次に数例として掲げた諸点から前記の三系統のうちで、(B)系統の写本と考えられる。

そこで、出雲歴史博本、勝部氏本、本写本の三写本の数箇所を翻刻して比較したい。そのうえで、本写本が(B)系統のものであることを確認したい(当該箇所の写真の後掲)。

なお、大日方氏が(C)俗解抄系写本として紹介する、出雲金剛寺本の⁽³⁾、後述の②③の当該箇所も翻刻して、本写本の系統の位置づけの参考に供する。

①「宏雄序」箇所の比較

(A) 出雲歴史博本 [写真4-1①②]

天和癸亥歲初冬日岸崎氏馳乎走／包裹於書數卷投来于予塵几頭且／疑且喜而攤閱焉乃雲州風土記也／而本文中三寫魯魚殆不少也欲讀／之估屈不敢入于齒牙其下低書而／消解之悉矣實國中事跡野人之／俗欄郡縣之名號、方路之遠近炳然／宛如看乎掌中之物也蓋我國 神／明之靈域而且又雲州大神

之英蹤／也想夫六十餘國之廣矣五畿七道／之盛矣多不聞先代之風土記漏殘／于世吁惜哉此書之殘闕誤字夥矣／雖爾有此消解則後世博洽之士不／探略而得詳革誤而歸于正也乎然／則君之此舉其豈曰少補之哉於乎／此書。

天和三陽月日 杵築松林野衲法印宏雄

〔B〕勝部氏本 〔写真4―2①②〕

天和〔癸亥〕歲冬十月岸崎氏馳乎走封裏於書數卷／投呈于予塵几頭且疑且喜而披緘乃雲州風土記／而本中三寫魯魚頗不鮮也欲讀焉如箝在口不敢／入于齒牙其下低書而消解之悉矣實國中之事跡／野人之俗穰郡縣之名號方路之遠近炳然宛如看／乎掌中之物也蓋我國 神明之靈域而且又雲州／大神之英蹤想夫六十餘國之廣矣五畿七道之盛／矣多不聞先代之風土記漏殘于世嗟乎惜哉此書／之蠹闕鼠毀夥矣雖然有此消解則後世博強之士／不推略而得詳革誤而歸乎正也于然即君之此舉／其豈曰少補之哉於是乎遂書

杵築松林寺法印破衲宏雄

天和〔癸亥〕歲冬十二月日

〔本写本〕 〔写真4―3①②〕

天和〔癸亥〕歲冬十月岸崎氏馳乎走封裏於書數卷／投呈于予塵几頭且疑且喜而披緘乃雲州風土記／而本文中三寫魯魚頗不鮮也欲讀焉如箝在口／不敢入于齒牙其下低書而消解之悉矣實國中／之事跡野人之俗穰郡縣之名號方路之遠近炳然／宛如看乎掌中之物也蓋我國神明之靈域而／且又雲州太神之英蹤想夫六拾余國之廣矣五畿七／道之盛矣多不聞先代之風土記漏殘于世嗟乎惜哉此／書之蠹闕鼠毀夥矣雖然有此消解則後世博／強之士不推略而得詳革誤而歸于正也乎然即／君之此舉其豈曰少補之哉於是乎遂書

杵築松林寺法印破衲宏雄

天和〔癸亥〕歲冬十二月日

②「本文一丁オ（卷首）」の比較

〔A〕出雲歷博本〔写真5―1①②〕

國之大體首震尾坤東南宮北属海

東一百卅七里二十九步南北一百

八十三里一百九十三

一百步

七十三里卅二步

得而難可誤

鈔曰國之震者以能儀郡母理鄉為首坤者

以飯石郡赤穴村為國之尾也東西一百卅

七里二十九步以今時路尺考之二十二里三十

町九十間此者自母理鄉到赤穴村之路程

也又南北一百八十三里一百十三里一百九

十三步以今時路尺考之卅里二十一町三間

此蓋自嶋根郡千酌驛經意宇郡完道及

大原飯石仁多三郡通阿位鄉備後國堺

之路程歟

〔B〕勝部氏本〔写真5―2①②〕

國之大體首震尾坤東南宮北属海東西一百卅七

里二十九步南北一百八十三里一百九十三

一百步

七十三里卅二步

得而難可誤

鈔云此本文脱簡多而大難曉姑撮要録之曰國之震以能儀郡母理郷爲首坤以飯石郡赤穴村爲國之尾也東西一百廿七里一十九步今之廿二里卅町九十間北則自母理郷到赤穴村之路程也餘蓋自嶋根郡千酌驛經意宇郡完道及大原飯石仁多三郡到備後界阿位郷之路計耶

【本写本】〔写真5―3①②〕

國之大體首震尾坤東南宮北属海東西一百卅七里一十九步南北一百八十三里一

百九十三步

七十三里卅二步

得而難可誤

鈔曰此本脱簡多而大難曉姑撮要録之曰國之震ハ以能義郡母里郷爲首坤以飯石郡赤穴村爲國尾也東西一百卅七里十九步今之廿二里卅町九十間也此則自母里郷到赤穴村之路程也餘蓋自嶋根郡千酌驛經意宇郡完道及大原飯石仁田三郡到備後界阿位郷之路許耶

(C) 出雲金剛寺本

國之大體首震尾坤東西宮北属海東西一百卅七里一十九步南北一百八十三里一百九十三步一百步

七十三里卅二步得而難可誤

俗解鈔曰震者以能儀郡母里郷爲首坤者飯石郡赤穴村此國之尾也

東西以今路卅六町考之廿二里卅町十九間也此者自母里到赤穴道度也南北以今道考之卅里廿一町十三間也

此者自嶋根郡千酌驛經意宇郡完道大原飯石仁田郡通阿位郷備後國堺坎

③意宇郡郷名列記個所未尾の鈔文の比較

(A) 出雲歷博本〔写真6―1①②〕

鈔曰分舍人安來楯縫口縫屋代山國母理野城加茂神戸等九處以爲能儀郡合完道來待拝志神戸忌部山代大草筑陽等八處以爲意宇郡也口縫能儀郡九重村也野城驛能儀郡松井村野城大明神所産也故號能儀郡矣所謂此川舊有三十六丈之橋梁而今則無矣筑陽非竹矢也蓋意東村矣今以筑陽川之方路考之益明白也意東意宇東邊而与能儀郡荒嶋村之堺也

(B) 勝部氏本〔写真6―2〕

抄云分併舍人安来楯縫口縫屋代山國母理野城加茂
神戸等九處以為能儀郡留合完道來待拝志神戸忌部
山代大草筑陽等地以為意宇郡也口縫今九重村筑
陽非今竹矢村蓋今意東村以筑陽川考之益明矣意
東意宇東邊而与能儀郡荒嶋之界也

【本写本】〔写真6―3〕

抄云分併舍人安来楯縫口縫屋代山國母里能義加茂
神戸等五處以為能義郡留合完道來町拝志忌部神戸
山代大草筑陽等地以為意宇郡也口縫今九重村筑陽
非今竹矢村蓋意東村也以筑陽川考之益明矣意東意宇東
邊而与能義郡荒嶋之界也

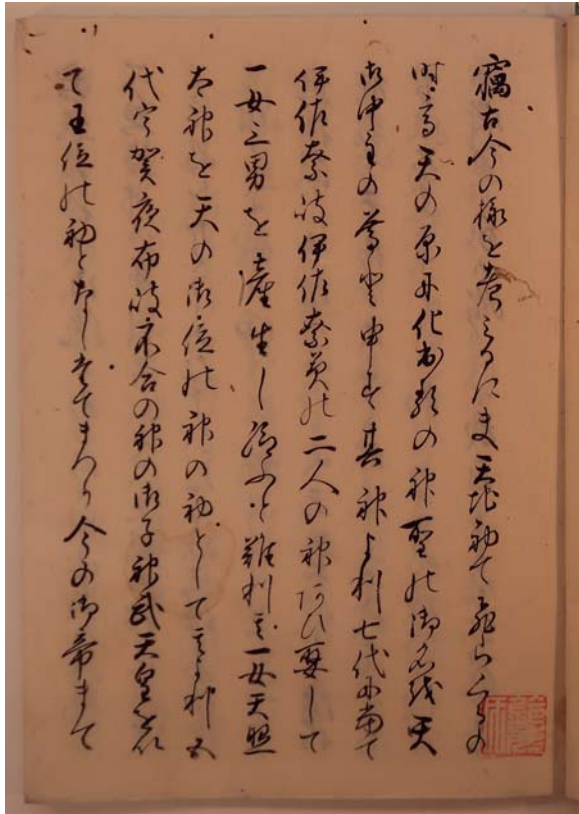
（C）出雲金剛寺本

鈔曰以舍人安来楯縫口縫屋代山國
母理野城加茂神戸等九鄉為能儀郡以
完道來待拝志忌部神戸山代大草筑湯等
八鄉為意宇郡也口縫者能儀郡九重村也
野城也野城驛者能儀郡松井村野城大神坐
□也因號能儀郡歟所謂此川旧者有三十
六丈橋今則無矣筑湯者非竹矢村蓋意東
村也以筑湯川之路程指方考之益明白也

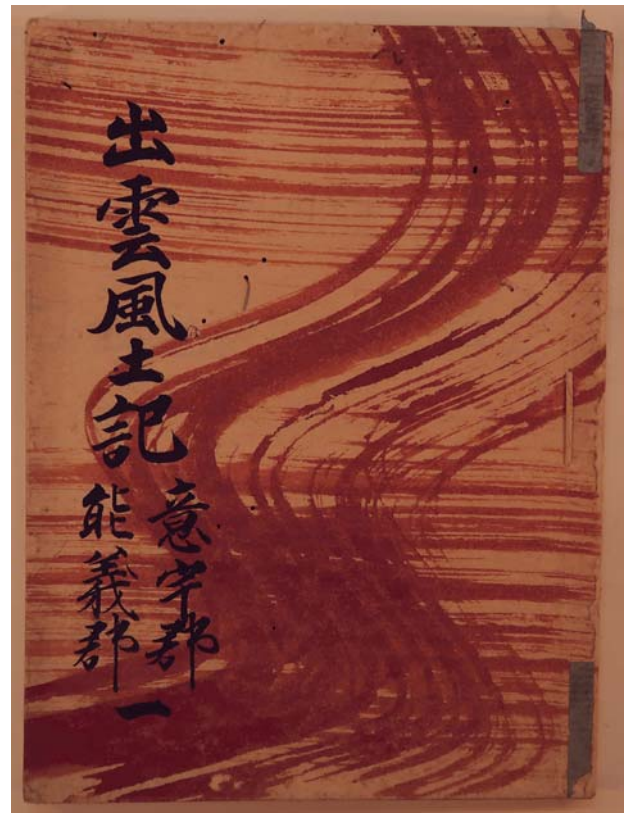
註

- （1）大日方克己 『出雲風土記抄』の成立と諸本（『島根県立古代出雲歴史博物館所蔵 影印 出雲風土記抄（雲州風土記）』島根県教育委員会、二〇二一年）。
 - （2）橋本剛・野々村安浩 「資料調査 出雲国風土記写本の調査（十九）」『古代文化研究』三十一号、島根県古代文化センター、二〇二三年。
 - （3）出雲金剛寺本（出雲市 金剛峯寺所蔵、島根県立図書館寄託）の概要は、野々村安浩「資料調査 出雲国風土記写本の調査（十六）」『古代文化研究』一七号、島根県古代文化センター、二〇一九年）で報告している。大日方氏（二〇二二年）が、『俗解鈔』系について述べているように、出雲金剛寺本にも、岸崎序・宏雄序はない。
- 同系統の写本である島根大学附属図書館所蔵の神田厚敬書写本も同様の記載である。この写本の画像は同大学附属図書館ホームページの「貴重資料デジタルアーカイブ」にて、「出雲国風土記俗解鈔 乾」「出雲国風土記俗解鈔 坤」二冊（資料番号1429805・1429806）として公開されている。

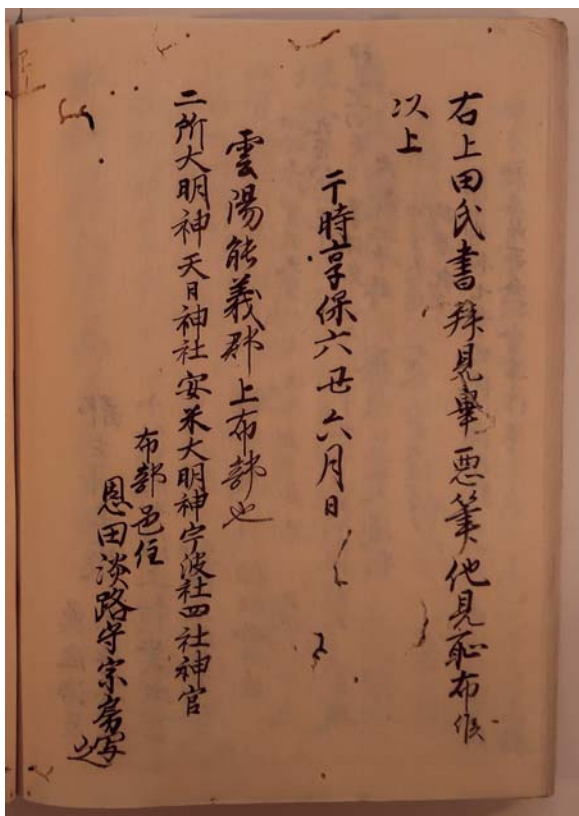
（野々村安浩 記）



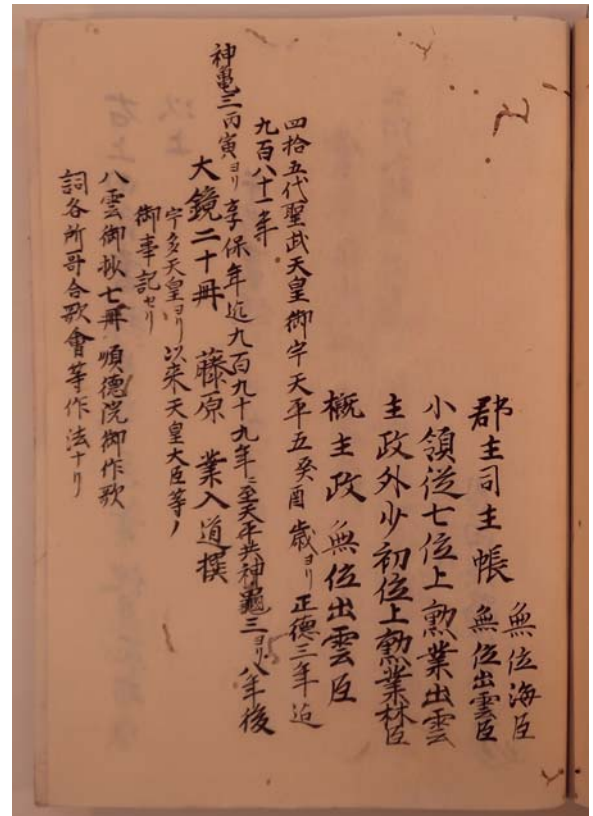
【写真2】頭書1丁オモテ



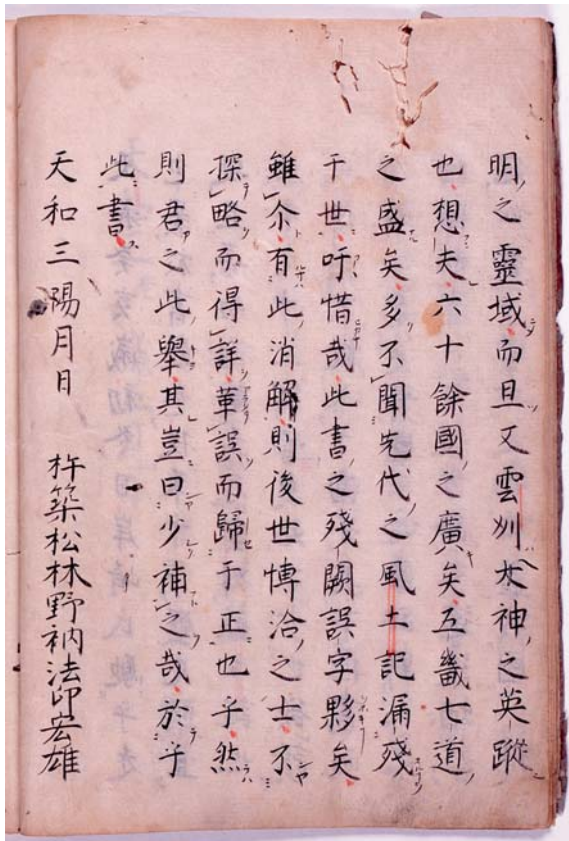
【写真1】表紙



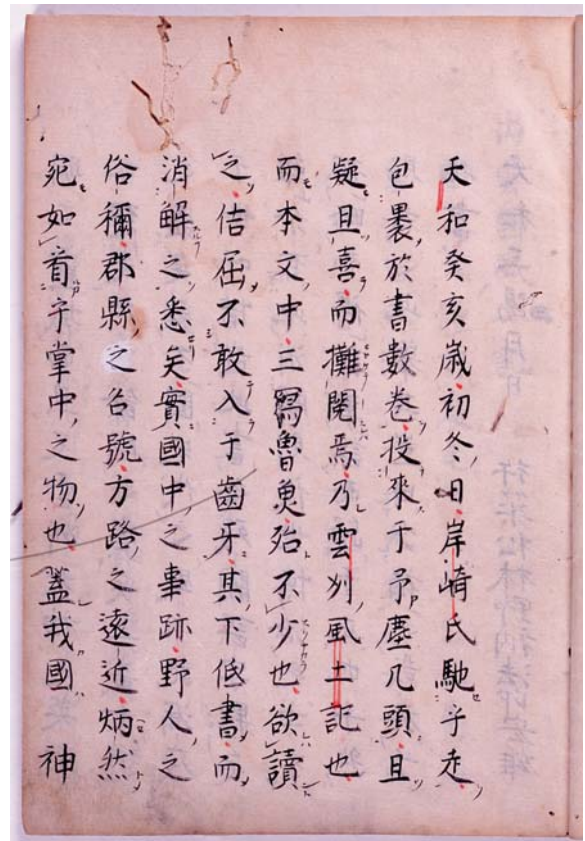
【写真3②】本文23丁ウラ



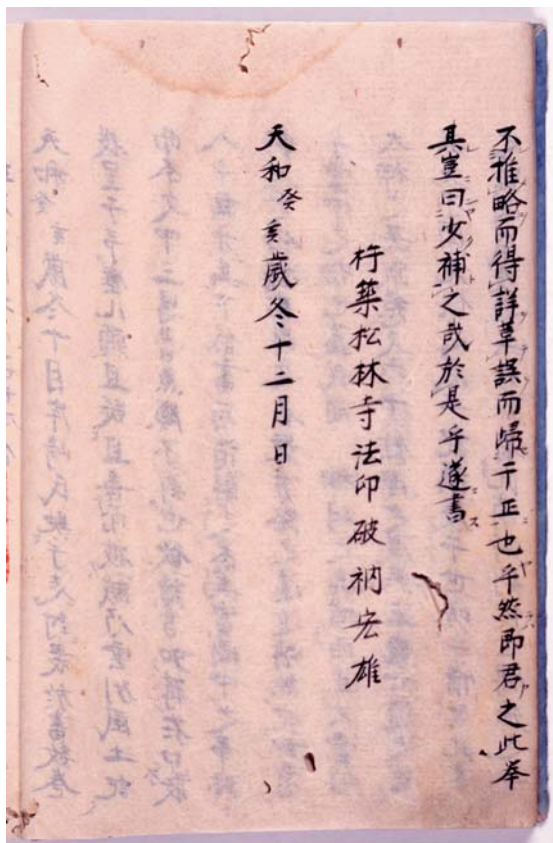
【写真3①】本文23丁オモテ



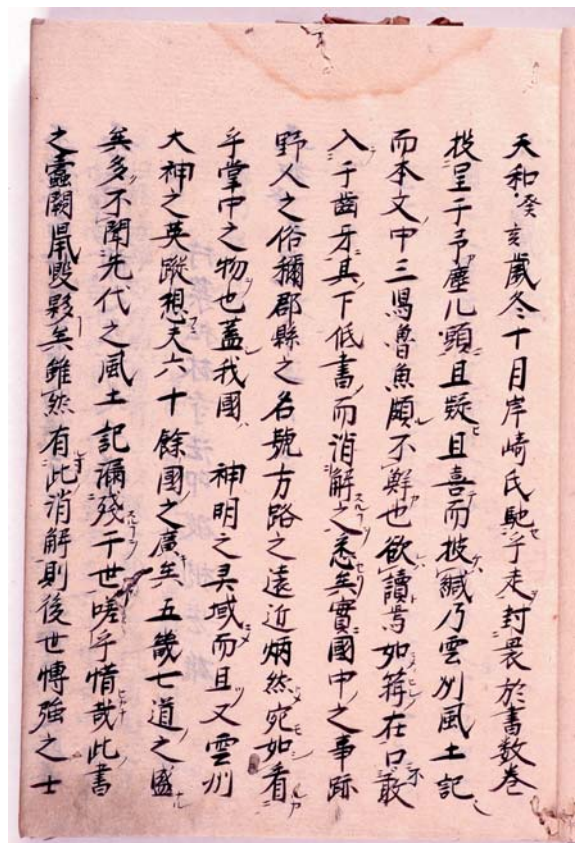
【写真 4-1 ②】出雲歴博本 (第一冊)
頭書 5 丁ウラ (宏雄序)



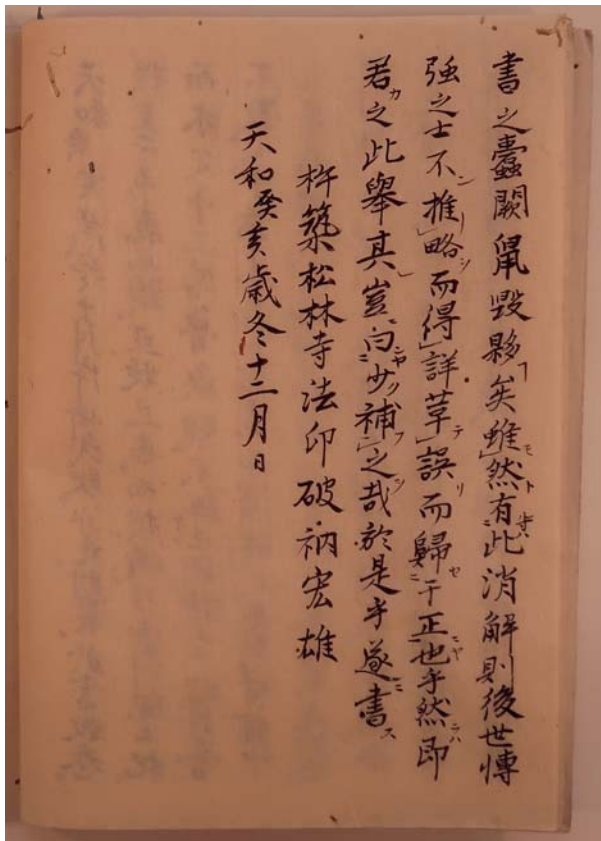
【写真 4-1 ①】出雲歴博本 (第一冊)
頭書 5 丁オモテ (宏雄序)



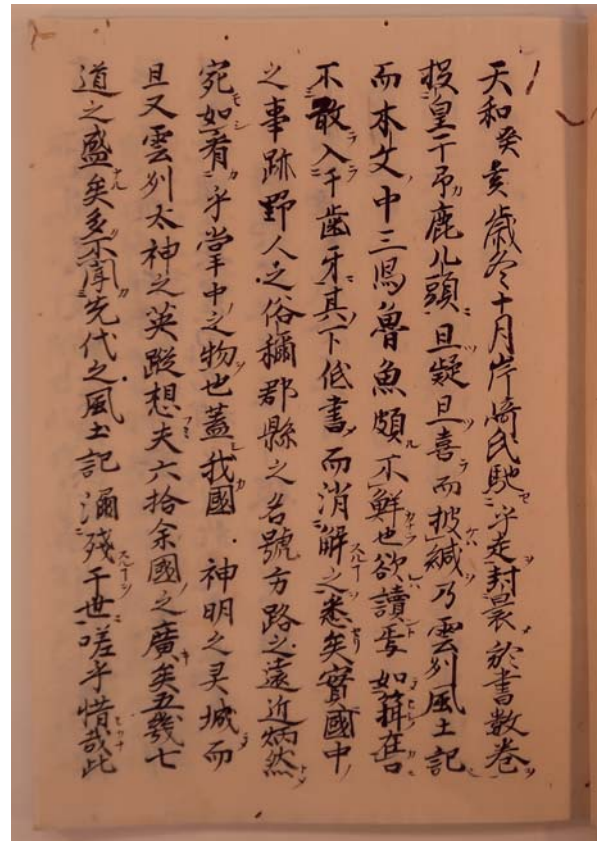
【写真 4-2 ②】勝部氏本 頭書 5 丁ウラ (宏雄序)



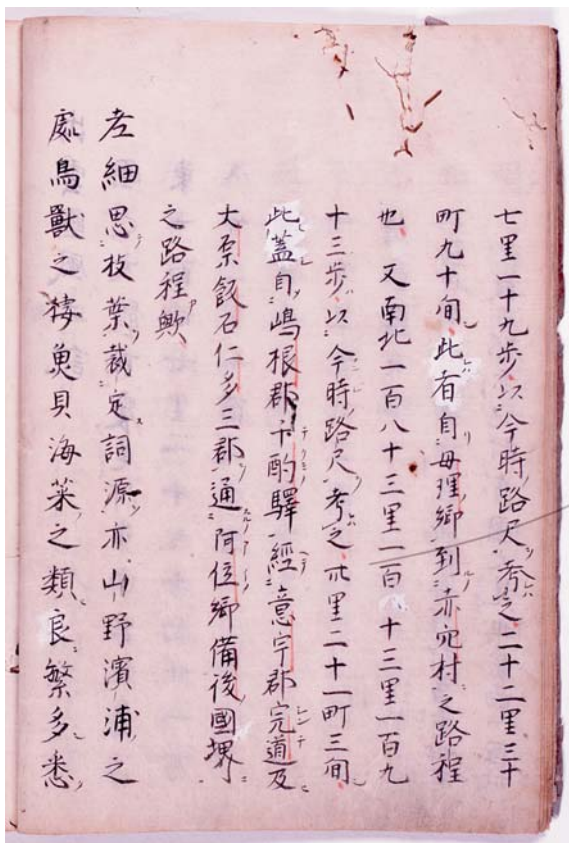
【写真 4-2 ①】勝部氏本 頭書 5 丁オモテ (宏雄序)



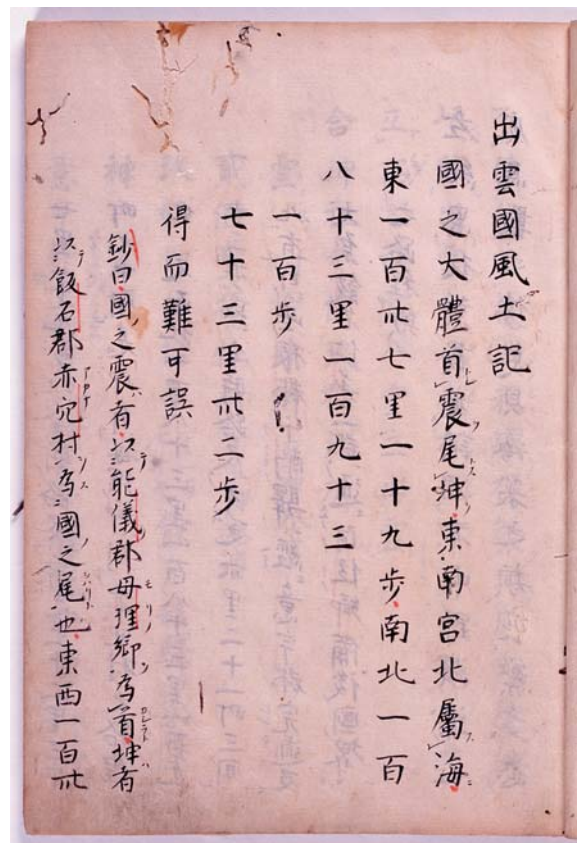
【写真4-3②】本写本 頭書5丁ウラ (宏雄序)



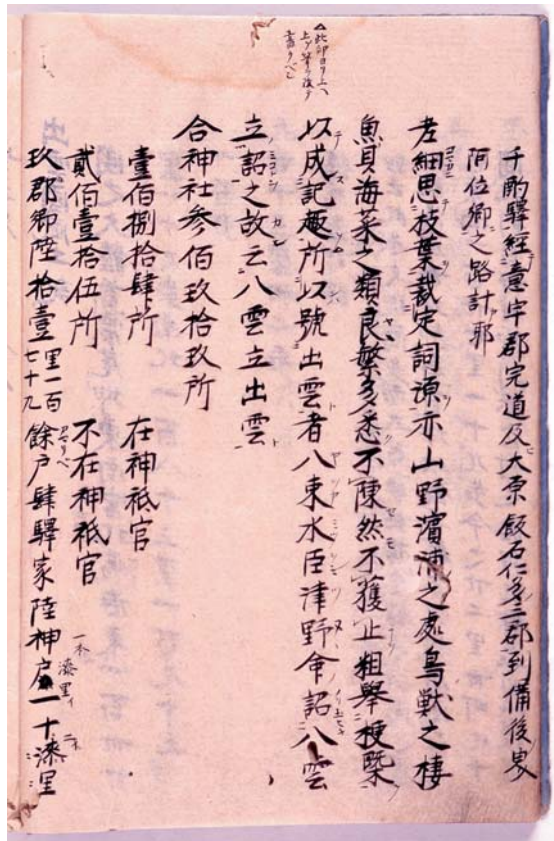
【写真4-3①】本写本 頭書5丁オモテ (宏雄序)



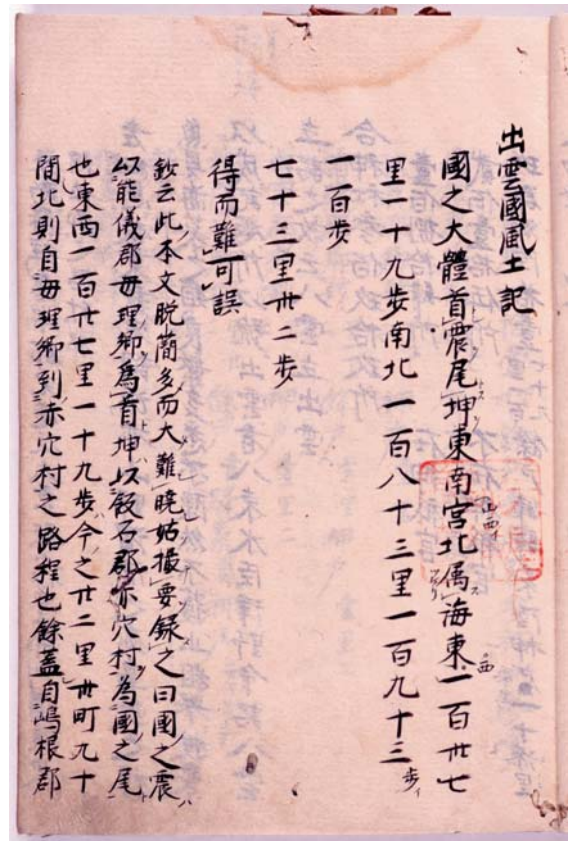
【写真5-1②】出雲歴博本 (第一冊) 本文1丁ウラ



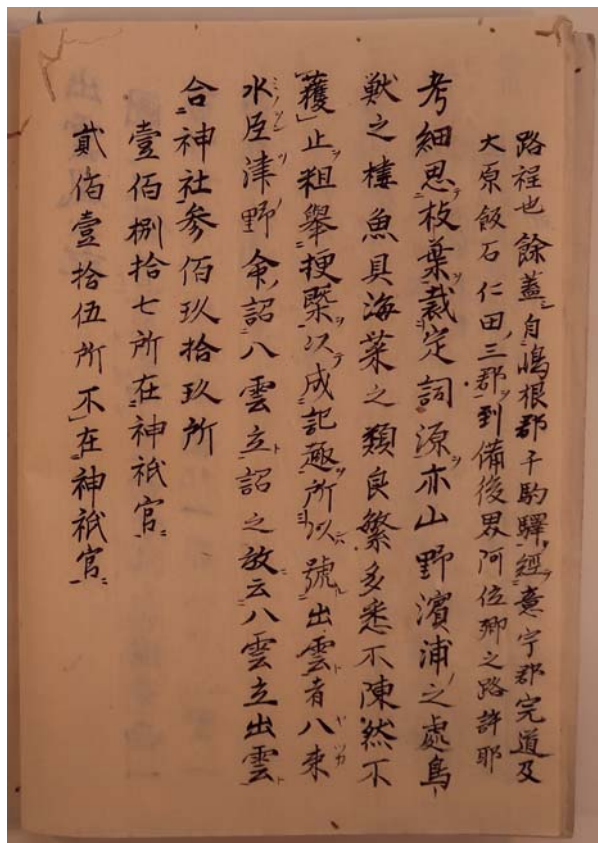
【写真5-1①】出雲歴博本 (第一冊) 本文1丁オモテ



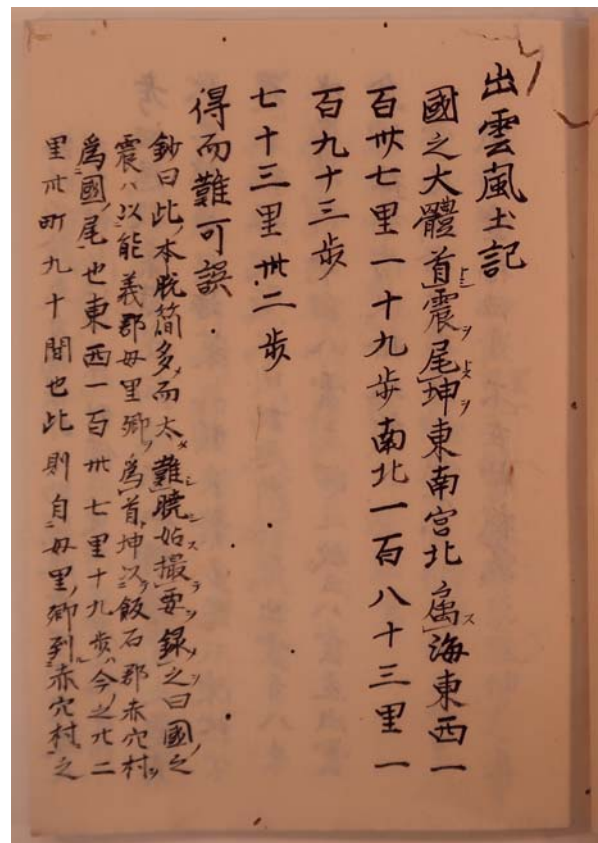
【写真5-2②】勝部氏本 本文1丁ウラ



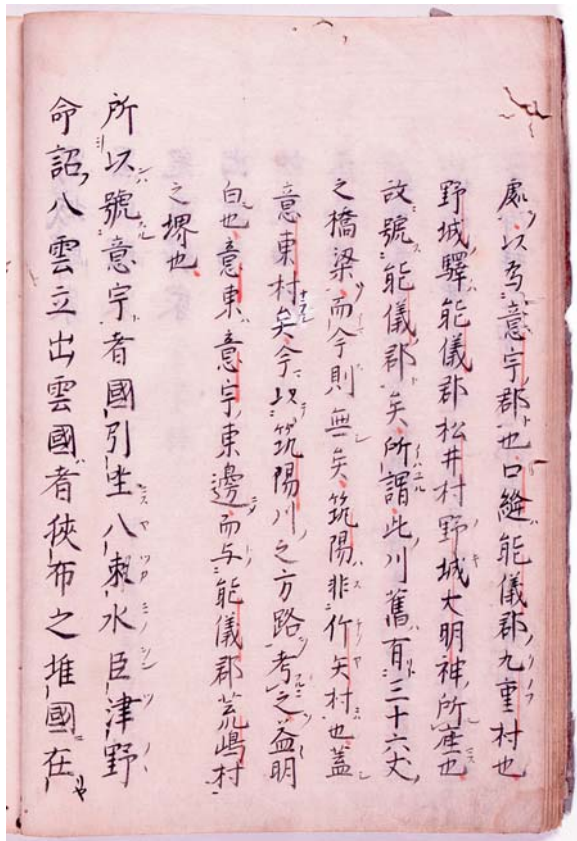
【写真5-2①】勝部氏本 本文1丁オモテ



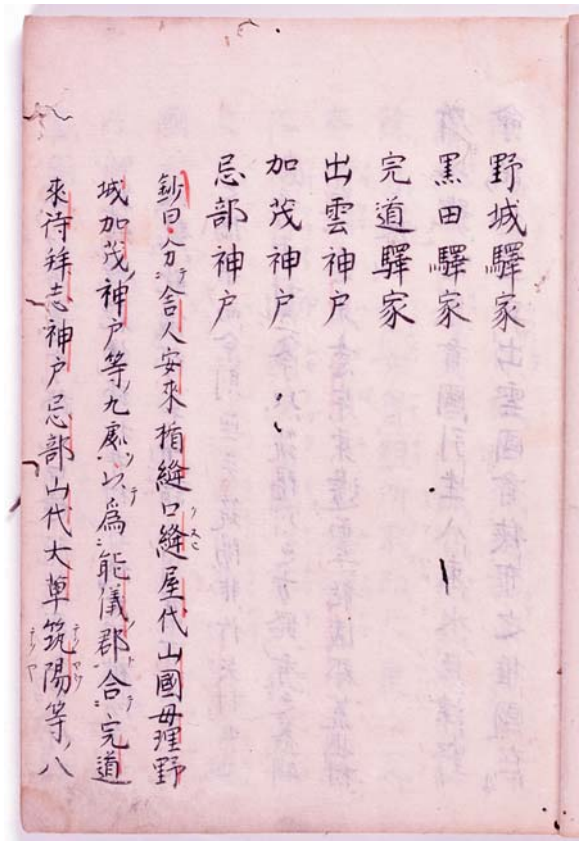
【写真5-3②】本写本 本文1丁ウラ



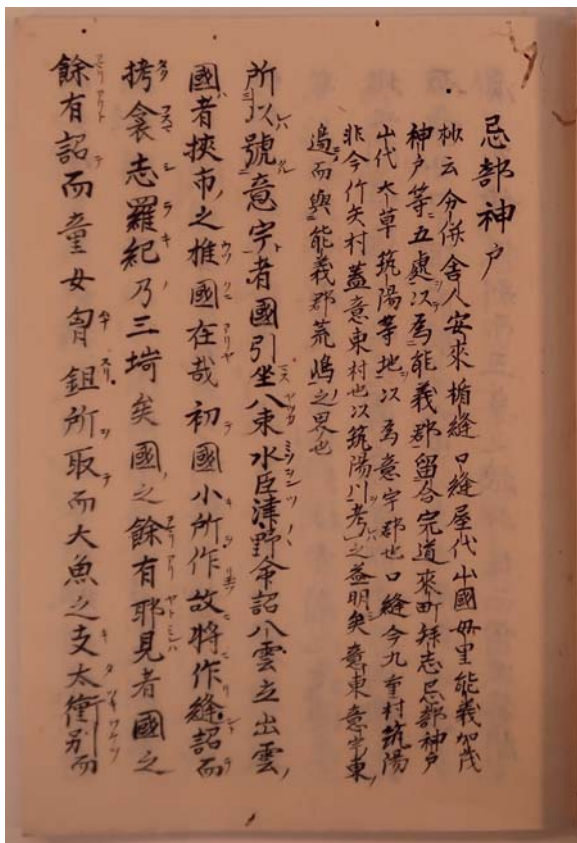
【写真5-3①】本写本 本文1丁オモテ



【写真 6-1 ②】出雲歴博本 (第一冊) 本文 9 丁ウラ



【写真 6-1 ①】出雲歴博本 (第一冊) 本文 9 丁オモテ



【写真 6-3】本写本 本文 4 丁オモテ



【写真 6-2】勝部氏本 本文 3 丁ウラ